論壇

地域医療創世への挑戦と医学教育

佐野厚生総合病院病院長
医学教育統轄センター客員教授
腎臓内分泌代謝内科非常勤講師
村上円人

2022年は佐野厚生総合病院が「ケアミックス型病院から急性期病院へ転換」して「急性期病床が増床」となる記念すべき年になりました。2017年に慶應人事で病院変革を託され、病院長として赴任後6年目を迎え、その地域医療創世への挑戦と地方病院における医学教育についてご紹介します。

赴任時は深刻な医師不足と看護師不足等の問題をかかえ、当時大手医療コンサルタントから提示されていた今後のプランは、医師少数区域に位置し人材確保が困難なため「急性期病床から慢性期病床への転換と病床数縮小」でした。上層部からは病院変革を委ねられ、その医療コンサルタントとの契約を打ち切り、今後20年の詳細な地域データ分析を自ら行いました。その結果、今後入院患者需要は増加、特に脳血管障害、心血管病、糖尿病、透析患者等が増加するというものでした。そして当該二次医療圏からの急性期患者流出が加速していることが判明し、また県庁からは災害医療への参入の要望がありました。以上から同年9月に変革ビジョンとして「急性期・超急性期医療を地域で担う5疾病5事業をやりきる中核病院」をめざすことを柱に、災害拠点病院指定等の具体的目標を発表しました。現在、本ビジョンの90%以上は達成され災害拠点病院にも指定されました。

ビジョン実現に最も重要なのは人財です。「内科専攻医10人」を掲げて、研修センターを立ち上げて新専門医制度内科基幹病院の取得を達成し、2022年度内科専攻医は8人となり、内科入院患者は200名に達しました。幸い慶應医局の多大なご高配により、2022年度の常勤医師数および看護師入職者数は過去最多となり、医業収入は20%以上増加し、今回の急性期病院転換による総合入院体制加算等の効果で経営改善が加速しております。

優秀な指導医には多くの部下が集い、優れた指導医の自己実現に協力し働く意欲を高めることが病院経営の中心という理念を掲げ、透析センターを最新医療機器に更新し、慶應から腎臓内科医を迎え入れてその診療実績は5倍以上になりました。当院の慶應医局出身者は50%です。他大学の協力のもと13年間常勤医不在の泌尿器科は、現在4人体制で年間100件以上のペースでダビンチ手術を行い、循環器内科では本年度心臓カテーテル検査装置の更新とアブレーション治療導入をひかえております。

人事面では推薦委員会を立ち上げました。各部門の変革、職員研修に大幅な投資を開始しました。慶應からの多大なご支援に加えて、研修センター、病院機能評価受審、電子カルテ変更の成功や2019年の台風19号時のDMAT活躍、新型コロナ診療への地域の高評価等で、変革のペースは加速しております。上層部との信頼関係と現場の皆様の多大なる協力に感謝しております。また病院長として佐野市医師会との連携協議会立ち上げ、佐野三田会や警察友の会への参加、佐野市役所の定期訪問、市議会議員の院内勉強会開催等を行い、地域との連携にも力を入れております。

人財確保の礎は医学教育です。研修センター長として陣頭指揮をとり全職種の横断的研修管理体制を敷いております。本学からは多くの優秀な医学生や医師を毎年派遣いただき、職員も多くの刺激を受けております。優秀な若いスタッフとのフラットな交流は、指導医にとっても知識や意欲をリニューアルする最高の機会です。最近の医療サイトで若手医師が病院を選ぶ条件として症例が豊富なことが上位にランクインしています。当院は研修医6人枠で栃木県連続フルマッチ記録を有しております。研修医枠拡大に関する当院研修医の意見は、症例数が減ってしまい当院の魅力が薄れるというものでした。医師少数区域を逆手にとり、豊富な症例数、内科学教室ベストインストラクター賞受賞3名、ゆったりした環境でたくさん経験できる病院として、今後も微力ながら慶應臨床医学教育の発展に寄与していく所存です。

地域診断に基づく地域ニーズに応える頼られる病院をめざす！9月から病院訪問診療部門を新設し、へき地医療への介入も始まりました。ひとりで見る夢はただの夢、みんなで見る夢は現実になる（ジョン・レノン）。慶應医学にとって地方病院は臨床医学教育環境として大変重要です。今後も魅力ある教育環境を提供できるよう挑戦は続きます。現場力の向上のために大学の支援の大切さを痛感し感謝した6年でした。

（63回）